

# 学級活動学習指導案

日時 平成30年10月26日(金)

場所 盛岡市立大宮中学校 3年4組教室

対象 3年4組

(男子15名 女子16名 計31名)

授業者 教諭 菊池文子

1 題材名 「社会の一員としての自分を考える」

2 教材について

## (1) 教材観

学習指導要領の学級活動の内容(3)イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」にあるように自分の住んでいる地域や社会に関心を持ち、その一員としての自覚や責任をもって生活する態度は将来の社会的自立において重要である。人は一人で生きているわけではなく、社会や地域との関わりをもって職業人として、地域人として生活していく。しかし、近年は自分の住んでいる地域への関心が全体的に低く、近所づきあいも疎遠になりがちである。また、岩手県では少子高齢化や過疎化が進み、社会福祉、地域福祉が今後さらに活性化していく必要がある。誰もが自分らしく生きることができるコミュニティを他者と協働して築いていく力がよりいっそう求められる。

生徒たちは総合学習では1学年で自分の生き方や他者との関わり方を学び、2学年で学び方やものの考え方、働くことの意義や生きがいなどについて学んでいる。3学年では修学旅行や福祉体験学習を通して社会の仕組みや自分達が生活する地域における現状に目を向けさせ、地域に生きる一員として役割を果たすことの大切さを考えさせたい。

## (2) 生徒の実態

明るく、元気で個性が認められる学級である。男女の仲が良く、話し合い活動では言いたいことをはっきりと言える雰囲気ができている。しかし、全体の場での発表となると、挙手しての発言は少ない。学級のきまりや社会のきまりを守る意識が希薄で、学校生活の中で何度も同じことを注意される生徒もいる。

新しいことを発想する活動が好きな生徒が多く、特に身近な題材をテーマに創造する活動は楽しんで行い、盛り上がる。一方で、じっくりと一つの物事に向き合って考える活動を苦手とする生徒もいる。

## (3) 指導観とキャリア教育との関わり

### ① 指導観

本研究では、年齢や立場、それぞれのライフステージの変化に応じた地域社会における役割について考えさせたい。そのために、総合的な学習の時間における福祉体験の事前学習として、ねらいや学ぶべき視点について指導し、事後学習としてこの授業を設定した。今の自分達が地域にどのように貢献できているか考え、またこの地域の良いところと課題を出し合い、将来にわたってよりよく人が暮らしていくためにはどのようにしたら良いか考えさせたい。3時間目には、それまでの2時間を振り返り、将来どの地域に居住するにしても、社会の一員として、地域の一員として仕事

や地域のイベントなどを通じて社会に参画する態度を養う。これらの時間が、地域や生活から離れたものにならないよう配慮し、指導を行いたい。

## ② キャリア教育との関わり

本研究を進めるにあたり、3学年ではテーマを「社会の一員としての自分を考える」とし、卒業後に仕事や地域の活動を通じて社会に貢献しようとする態度を養う。地域に貢献するということは、地域に暮らすものとして地域のお祭りなどの企画・運営に携わるほか、資源回収や草取り清掃、お祭りに参加することなど、直接地域に関わること、また仕事を通して製造、物流、サービスを行うなどの様々なことが挙げられる。中学生として、お祭りへの出演・参加、クリーン作戦、授業の一環としての職場体験学習や福祉体験学習など、様々な形で既に地域に貢献しているという視点を持ち、地域のコミュニティをつくる一員となる自覚を持たせたい。

さらに、授業を進める手立てとして話し合い活動をすることで互いに話をする、聞く等のコミュニケーション能力や、主体性を身につけさせたい。

## 3 評価の基準と本実践における評価基準

集団活動の意義や活動上の必要事項の理解と行動 <b>【知識および技能】</b>	生活や人間関係の課題の発見と解決のための話し合い、合意形成の意思決定 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b>	人間関係等のよりよい形成、生き方の深化と自己表現を図ろうとする態度 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b>
福祉や自分たちが住む地域について良いところや課題について正しく理解している。	身近な地域に福祉の視点を持って、誰もがよりよく生きることができるよう方法を考え、判断し、実践することができる。	地域や自分たちとのつながりに目を向け、身近な地域貢献を積極的に行おうとしている。

## 4 指導計画と評価基準

時数	指導計画	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価の方法
1	私たちにできる社会貢献を考えよう	①中学生と進路5を読み、「わたしの住む地域チェック」を行い、地域について考える。 ②身近な方々が地域の一員として活動していることを出し合う。 ③自分の参加経験を振り返る。	○今も身近で当たり前に行っている活動や地域とのふれあいが社会貢献・地域貢献である、という価値観を持たせる。	<b>【思考力、判断力、実践力】</b> 地域貢献とはどのようなことなのかを考え、判断し、実践することができる。 <b>【知識および技能】</b> 家族など身近な方が地域とどのように関わって生活しているか知っている。
2	「福祉」の視点で盛岡のまちをよりよくしよう	指導案に記載	指導案に記載	指導案に記載

3	自分の将来を設計しよう	自分が親と同じ年になった時、どのように地域と関わり暮らしていくか、考え、意見交流をする。	○将来、ライフステージにおいて人間関係が変化することを意識させる。 ○どこに行っても地域コミュニティはどこでも大切なものであることを意識させる。	【思考力、判断力、実践力】 前の2時間をまとめ、自分と向き合い、周りと交流しながら、自分の将来について考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の将来に積極的に向き合い、周りとの関わりの中で生き方について考えを深めることができる。
---	-------------	--	---	---

## 5 本時について

### (1) 本時のねらい

- 福祉とは何かを知り、自分たちの話し合い活動が地域を良くしようとする活動そのものであることに気づかせる。
- 仲間の意見を聞き、その良さに気づき、他者から学ぼうとする姿勢を身につけさせる。

### (2) 授業の構想

前時で地域貢献について考え、周りの人と一緒に活動してきたことが地域貢献であることを知る。その中で当たり前だと思っているあいさつや中学生として学校に通うことなども広い意味では地域コミュニティを形づくるのに役立っていることを理解している。

本時はそんな盛岡のまちと自分たちが行った福祉体験学習を通して培った「福祉」の視点を結びつけ、誰もが自分らしく生きることができる地域社会をつくらうとする意欲や態度を育てたい。そのために、前時や福祉体験学習について振り返り、福祉施設での心遣いなどで自分たちのまちに生かせそうなことがないか考える。意見を活発に出すために、ブレインストーミングの手法で意見をグループごとにまとめさせる。どんな方法でも改善するための方法となり得ることや、特別なことでなく日常生活の中に実現可能なものがちりばめられていることに気づかせたい。また、本時のように話し合うことは、メンバーや立場が変わるが、将来よりよい地域社会をつくるための活動と直接結びつくことにも気づかせたい。

### (3) キャリア教育との関わり

具体の要素【主体性・コミュニケーション能力】

「主体性・コミュニケーション能力」を育むために、次の三つの手立てを考え、実践する。

#### ① 内発的な動機付けとなる課題設定

身近な地域と自分たちが学習した福祉と結びつけることで、より身近な課題としてとらえさせる。また将来地域の役割を担うものとしての自覚を持たせながら進める。

#### ② 思考(内化・外化)時間の保障と交流

地域コミュニティにおいて、課題について様々な立場で話し合うことは大変重要である。関心をもち、主体的に意見を出したり、互いにそれを聞き、認めあう活動をしたりする時間を確実に保障する。また、ブレインストーミングを用いることで、否定をせず活発な意見の交流の場としたい。

### ③ 振り返りの設定

集団でよりよい活動をするのはもちろん大切であるが、最後には必ず自分がどのように行動するのかを決定する時間を設定する。

### (4) 評価基準

観点	おおむね満足できる	基準に達しない生徒への具体的支援
思考力、判断力、表現力等	福祉体験学習で実際に学んだ福祉の視点で地域を見直し、誰もが生活しやすい環境について考えることができる。	ポートフォリオや前時の活動プリントを活用し、結びつけられそうなことがないかを考えさせる。
学びに向かう力、人間性等	話し合い活動に積極的に参加し、意見交流を通して地域の良さや地域貢献のあり方について考えられる。	話し合い活動のルールを決めて、全員が話すように指導する。

(5) 本時の展開

過程	キャリア教育の視点・学習活動	生徒の活動	指導上の留意点○評価
導入 (10)	1 内化→外化 (4分)	1 福祉体験学習について振り返る。 事業所の評価に対して感想を言う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉体験学習で、事業所から戻ってきたアンケートを紹介する。(コメント欄)</li> <li>紙板書用意</li> <li>「福祉」: 公的扶助やサービスによる生活の安定、充足(広辞苑) 社会福祉と地域福祉などがある。</li> <li>福祉=ボランティアではない。</li> </ul>
	2 内化 (5分)	2 「福祉」とは何か知る。	
	3 内化	3 学習課題の設定	
<b>学習課題: 「福祉」の視点で盛岡のまちをよりよくしよう</b>			
展開 (30)	4 内化→外化 (3分)	4 各事業所で行なっていた活動や安全に生活するための施設の工夫、働いている人の心遣いなどを挙げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオを返却、活用。</li> <li>板書して視覚化する</li> <li>※施設の工夫…段差、入り口、通路、洗面台、掲示物など</li> <li>ブレインストーミングを行う。</li> <li>班ごと</li> <li>役割分担 誕生日の早い人から順に時計回りに1～6。</li> <li>1 2 : 進行 3 4 : 発表 5 6 : 記録</li> <li>他の人の意見を否定しない。</li> <li>全員がふせんに記入した内容について、紹介する。</li> <li>「誰もが安心して暮らせる社会」が福祉の視点なので、そういう視点で考えさせる。</li> <li>他の発表を聞いてメモを取らせる。</li> </ul>
	5 内化→外化→内化 (20分)	5 地域で生活していて事業所での工夫や心遣いが見えるところ、取り入れた方が良いところをふせんに書く。 画用紙にふせんを貼り(5分)、グルーピング(10分)をする。 話し合い、思いついたらさらに記入・貼付・グルーピング	
	6 外化 (7分)	6 学級全体で発表をする	
終末 (10)	7 内化	7 今日の授業を通してさっそくできそうなことを考えまとめ 何人か発表する プリントを回収する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後には、よりよい地域社会をつくるためには、様々な立場の方が集まって話し合う、今日のような活動が必要であることを伝える。</li> </ul>